

平成 21 年 3 月 19 日

各 位

日本農産工業株式会社

平成 21 年 4 ～ 6 月期の畜産配合飼料価格について

畜産配合飼料価格改定額

弊社は、平成 21 年 4 ～ 6 月期の畜産配合飼料価格につきまして、以下の飼料原料情勢等に基づき、平成 21 年 1 ～ 3 月期に比較して、全国全畜種総平均トン当たり約 3,150 円値下げすることを決定致しました。 尚、改定額は、地域別・畜種用途別・銘柄別に異なります。

飼料原料・外国為替情勢について

1. 原料（飼料穀物）

シカゴ定期とうもろこし 5 月限は ϕ 390/ブッシェル前後で推移しています。世界経済の悪化が畜産物消費を冷え込ませるとの懸念から穀物需要の減退が想定されます。今後は、3 月末発表予定の来年度米農務省の穀物作付面積予測、エタノールのガソリン混合率を 10% から 12～13% に拡大する論議、4 月中旬からの中西部地域での作付け状況等が注目されます。

2. 副原料（植物蛋白原料）

シカゴ定期大豆粕期近限月は \$ 300/ショートトン以上の高値から \$ 280 前後への低下傾向にありますが、船運賃の上昇・円安傾向により、国内大豆粕価格は 1～3 月期に比較して上昇する見込みです。

3. 海上運賃

世界的な景気後退の状況下、中国は約 58 兆円規模の財政出動を決定して、GDP 成長率 8% を目標としており、米国ガルフ/日本間パナマックス級本船の運賃価格は \$ 50/ト前後と上昇を見せています。新造船の投入が多く船舶需給が減少するとの見方から船運賃の急激な上昇はないと見られています。

4. 外国為替

リスク回避の動きにより比較的健全な円が買われていましたが、米国企業の海外資産の売却、投機筋の利益確保、本邦機関投資家の米国投資の継続、日本の政治的な混乱等によりドル買いの動きとなり、ドル円相場は 96 円前後となっています。